様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：２４５０６
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｈ０２６９５

研究課題名（和文）看護師と医師が協働するケア・キュア融合型症状マネジメントモデルの開発

研究課題名（英文）Development of the symptom management model that integrates care and cure collaborating between nurses and physicians

研究代表者
内布　敦子（Uchinuno, Atsuko）

兵庫県立大学・看護学部・副学長

研究者番号：２０２３２８６１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　22,900,000円

研究成果の概要（和文）：看護師が症状に対応するために作られた症状マネジメント統合的アプローチ(IASM)モデルに医師が行う治療やケアを組み入れ、「ケア・キュア融合型症状マネジメントモデル暫定版」を作成した。医師15名を対象としたインタビューからケア行動31項目、ケア認識14項目について医師100名でのweb調査で妥当性などを確認し、実際の事例に適用してモデルの中に位置づけた。重要な医師の役割である症状の医学的説明は13の動画で代替することとし、効率的に看護師・医師が協働できる症状マネジメントモデルとして完成させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本来、看護師が症状に対応するために作成されたIASMの中に医師の活動を組み入れることで、ケアとキュアを融合して提供する理想的な症状マネジメントモデルを描くことができた。モデルを使用することによって医師の潜在的なケア能力を活用して症状マネジメントの効果を期待することができる。
この研究の過程で、医師のケア行動やケア認識を明らかにする必要性に迫られ、調査研究を組み入れた。医師が行うケアを明示する文献は極めて少なく、学術的な調査も見当たらない。明らかとなった医師のケア行動や認識の項目は、量的調査で表面妥当性が確認できていることから、今後質問紙開発の基盤となる。

研究成果の概要（英文）：The Integrated Approach to Symptom Management(IASM) is an activity model for nurses. In this study, we developed a "provisional version of integrated care and cure symptom management model". The validity of 31 items of care behavior and 14 items of concept of care obtained from an interview with 15 physicians were confirmed by a web survey with 100 physicians. It was applied to actual cases and positioned in the model. The medical explanation of symptoms, which is an important role of the physician, will be replaced with 13 videos, and completed as a symptom management model that allows nurses and physicians to collaborate efficiently.

研究分野：がん看護

キーワード：症状マネジメント　ケア　キュア　協働　がん

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

診断早期から緩和ケアを提供することによって生存期間が延長するという Temel ら[1)]による報告が注目され、終末期の不快症状だけでなく、診断の時から発生する心理社会的負担、診断治療に伴う有害事象に対する早期からの介入の有効性に期待が寄せられている。Temel らが行った実践は、コーピングや意思決定支援、家族ケアなどを専門看護師、医師らからなるチームアプローチで行った[2)]ことが知られており、multidisciplinary な介入でキュアとケアが包括的に提供されたことの有用性が示されたと言える。観察研究によって、多職種がそれぞれの専門性を投入するチームアプローチの様相が報告されており、その類型化も研究されている[3)]が、医療分野で有効なチーム編成や運営の技法に関する実証的研究はほとんど蓄積されていない。一方、日本緩和医療学会学術集会でチーム医療関連の演題数は飛躍的に増えている（2011 年 42 件から 2015 年 70 件へ）が、多くはチームの活動実績を論じた研究であり、多職種協働による効果的なチーム医療の在り方については未だ構造化されていない。

従来から医師は治療（キュア）に責任を持ち、主に身体面への医学的介入を行い、看護師はケアを担うという観念的な考えがあるが、実際の医療現場では、医師は少なからず患者の心理に配慮したケアを実践している。一方、看護師はケアの専門家と言いながら、そのほとんどの時間を医師の指示のもとに行うキュアに費やしている。医師と看護師の役割は免許による法的な権限を最低限守りながら、おかれている臨床現場の状況によって変化する。医師も看護師も実際にはケアもキュアも融合して提供しているものと思われるが、その様相は明らかではない。

緩和ケアの領域で症状マネジメントのための看護活動モデルとして広く活用されてきた症状マネジメントの統合的アプローチ(Integrated symptom management：以下、IASM)[4)]は、看護師と患者とのパートナーシップを基盤に展開される。IASM は、患者を主体としたセルフケア支援をコアコンセプトとしており[5)]、我が国で臨床適用され、主に事例研究によって症状の改善やセルフケア能力の維持・促進、自己効力感の改善等をアウトカムとしてモデルの有効性に関する検証が重ねられている[6)7)]。症状マネジメントにおいて多職種、特に医学的診断と処方等の医療行為を行う医師の役割は、重要な位置を占めるにもかかわらず、これまでモデルに組み込まれないまま運用されてきた。医師および看護師のケア・キュア行動を明らかにし、IASM モデルにチームによる協働の考えを組み入れることで、患者と医療者のパートナーシップのもとに医師、看護師双方の機能を強化した患者中心のチーム医療を実現できるのではないかと考える。

２．研究の目的

本研究は、看護師と医師が協働するケア・キュア融合型症状マネジメントモデルの開発を目的として、以下の課題に取り組む。

(1) 症状マネジメントにおける医師のケア行動、ケア認識を明らかにする。
(2) 臨床でのケア実施状況の評価に活用するため、抽出された医師のケア行動・認識を表す項目を抽出し、その構造を明らかにする。
(3) IASM モデルを、患者を中心に看護師と医師がケアとキュアの機能を発揮しやすい看護師・医師協働のケア・キュア融合型症状マネジメントモデルとして発展させる。

３．研究の方法

(1) 医師のケア認識、ケア行動の明確化

① 医師のケア認識、ケア行動について文献検討およびフィールド調査を行い、大まかなケア認識、ケア行動の要素を抽出する。
② ①の要素をもとにグループインタビューを計画し、医師のケア認識、ケア行動を収集する。データは内容分析を行い、ケア認識および行動のカテゴリーを抽出し、構造を明らかにする。

(2) 医師のケア認識、ケア行動を構成する項目の抽出

① (1)で得られたデータを再分析し、項目を抽出する。
② 質問紙を作成し、医師を対象に項目の適切性を問う Web 調査を行う。

(3) ケア・キュア融合型症状マネジメントモデルの作成

① (1)で得られた医師のケア行動のデータを整理する。
② IASM モデルに医師のケア行動を組み込み、ケア・キュア融合型症状マネジメントモデル暫定版を作成する。
③ 暫定モデルに症状マネジメント事例を適用し、モデルの妥当性を確認する。

４．研究成果

(1) 医師のケア認識、ケア行動の明確化

① 文献検討、フィールド調査による要素の抽出

・文献検討によると、医師のケアに関する文献は極めて少なく、医師が言うケアとは何か、ケアの認識や行動の様相を学術的に調査したものは皆無に近かった。Kuethe ら[8)]は、喘息のマネジメントにおける看護師と医師のケアを文献レビューで比較している。Kuethe らの言う「医師のケア」は、「薬物の処方」、「吸入技術を含むセルフマネジメント教育」、「治療計画の立案」、「症状のセルフモニタリング」、「定期的な治療の見直し」を指しており、ケアの要素が含まれたキュアであることが伺えた。
・臨床医 15 名のヒアリング(フィールド調査)からは、医師の捉えるケアは看護師のケアとは異

なり、〈医学の専門的技術を用いて患者を安楽に導く〉〈患者に関心を示し対象を理解する〉〈患者の状況理解を促す〉〈患者に強いコミットメントを示す〉〈患者をねぎらう〉〈患者を尊重する〉という要素が読み取れた。これらのカテゴリーは、フォーカスグループインタビューの枠組みとして用いた。

② フォーカスグループインタビュー調査によるケア認識、ケア行動の明確化

・対象者は、がん患者の症状マネジメントに携わる医師 15 名(男性 12 名、女性 3 名、4 グループ)で、平均年齢は 48.7 歳(SD=9.34)、平均経験年数は 22.2 年(SD8.00)であった。

・医師の認識するケアは、キュアを含む包括的概念であった。特に、症状緩和はケアの要素が大きく、医師は、医学的治療に軸足をおくが、病気以外のことにもケアによって対応していることが語られた。医師の認識するケアの性質として、〈ケアは問題解決型ではない〉〈ケアとキュアは分けられない〉〈ケアには相互性がある〉〈ケアとキュアは一緒に提供して効果を上げる〉が抽出された。

・医師のケア行動として、〈患者が大切にしているものを大切にする〉〈人間として患者と向き合う〉〈患者を知り受け止める〉〈患者に寄り添う〉〈患者との関係性を作る〉〈医学的治療に責任をもつ〉〈熱心に治療を行う〉〈患者の心と体を楽にする〉〈患者との距離を調整する〉といったカテゴリーが抽出された。医師は、ケア行動によって得られる効果として〈ケアがもたらす双方への相乗効果〉〈ケアによる患者の良い状態〉を希求していることが分かった。意味内容から図 1 のような構造が描き出された。

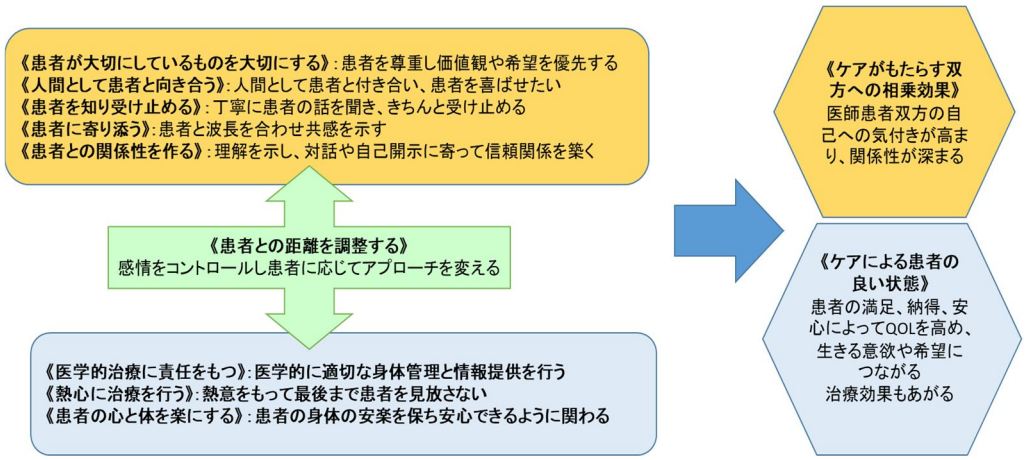


図 1　医師の行っているケアと期待される効果

(2) 医師のケア認識、ケア行動を構成する項目の抽出

① 質問項目の抽出と調査票の作成

・フォーカスグループインタビューで得られたデータからケアに関連する 357 の単位データが抽出され、質問項目を抽出するために質的内容分析を行った結果、医師のケア行動や態度を表す 31 項目と、ケアの概念的な認識を表す 14 項目に整理された(表 1、表 2)。

表 1　医師のケア行動や態度を表す項目

1	患者の希望に合わせて選択肢を提示する	16	患者を見放さない
2	患者に医学的判断や情報を隠さず正確に伝える	17	患者に最善の治療を提供する
3	患者に医師としての意見や思いを伝える	18	医学的治療に責任をもち、医師の役割を果たす
4	患者と意思疎通を十分に行い、関係性を構築する	19	患者の身体だけでなく生活（QOL）にも配慮する
5	患者に深く関わり、信頼を得る	20	家族関係の調整を行う
6	患者と関係性を深めるために自己開示をすることもある	21	患者の病気以外の困りごと（仕事、家族など）にも関心を払う
7	患者に共感し思いを受け止める	22	患者の安心や納得を導く
8	丁寧に患者の話を聞く	23	患者の満足を得る
9	誠意を持って患者を理解する	24	患者らしく心地よく過ごせるようにする
10	医師の方針を押し付けず、患者の希望を聞いて調整する	25	病気の治療だけでなく患者の苦痛を緩和する
		26	患者に敬意を払う
11	患者が今できることに目を向けられるよう支える	27	患者が大切にしているものを大切にする
		28	患者の意思や希望を尊重する
12	患者の波長や反応に合わせて診療を進める	29	医師としての自分の感情を適切にマネジメントする
13	患者の気付きに付き合ったり待ったりする		
14	患者のプライバシーを大切にする	30	患者との適切な距離を見極める
15	患者の覚悟を共有し、一緒に頑張ることを伝える	31	患者の病状を予測しながら診療を行う

表 2　医師のケア認識を表す項目

1	ケアとキュアは相補的である	9	ケア行動は個人の特性によって差がある
2	ケアはチームで提供する	10	ケアはエビデンスを示しにくい
3	ケアは治療の一環である	11	ケアによって患者は希望を見出す
4	ケアは専門職でなくても提供できる	12	ケアによって患者との信頼関係が深まる
5	ケアには人間としての関わりが含まれる	13	ケアによって患者のセルフアウェアネスが高まる
6	問題解決思考ではケアにはならない	14	ケアを一緒に提供すると治療の効果が上がる
7	ケアをすると自分自身も癒される		
8	ケアは状況によって制約を受ける		

・医師のケア行動・態度を表す 31 項目は、質問項目として適切かどうかについて「適切である」～「適切ではない」の 5 件法、医師のケア認識を表す 14 項目については、同意できるかについて「大いに同意できる」～「まったく同意できない」の 5 件法で調査票を作成した。

② Web 調査

・調査票は、Web 調査会社の楽天インサイトに登録されている医師 1,788 名(男性 1,524 名、女性 264 名)に送信され、先着 100 名(男性 88 名、女性 12 名)から回答を得た。平均年齢は 51.80 歳(29～69 歳)、平均臨床経験年数は 24.78 年(3～44 年、SD=9.433)であった。

・医師のケア行動・態度を問う項目の適切性について、得られた回答を単純集計した結果、多くの項目で 90%以上の対象者が適切な質問項目と答えた。適切であると回答した対象者が少なかった項目は、「6.患者と関係性を深めるために自己開示をすることもある」71%であり、80%を割っているものはこの 1 項目のみであった。因子分析(固有値 1 以上、主因子法、バリマックス回転)を行った結果、第 1 因子＜医師としてのグッドプラクティス＞、第 2 因子＜患者への関心と配慮＞、第 3 因子＜患者‐医師間の治療方針の最適化＞に抽出された。

・医師のケア認識を表す項目について、14 項目中 11 項目で 90%の同意が得られた。「6.問題解決思考ではケアにならない」66%と「7.ケアをすると自分自身も癒される」68%の 2 項目においては、低い同意率であった。

(3)ケア・キュア融合型症状マネジメントモデルの作成

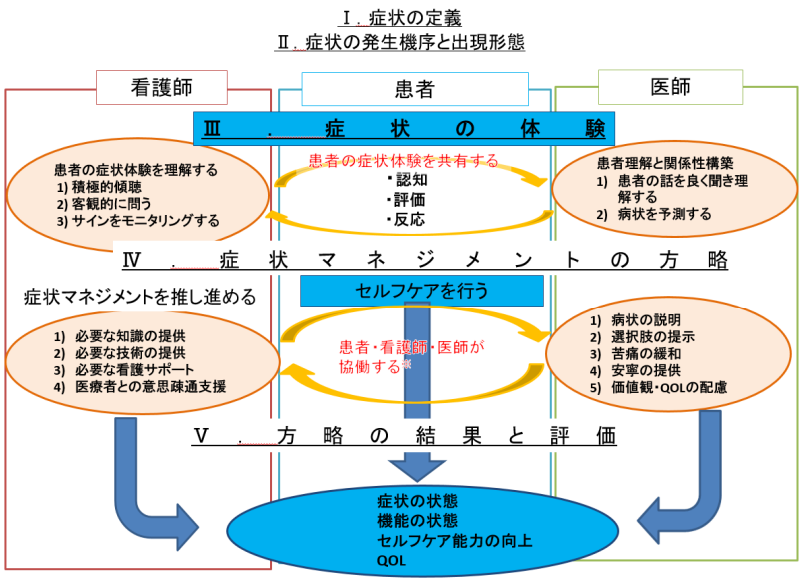
① 医師のケア行動を組み込んだモデル暫定版の作成

・31 項目を用いて、IASM モデル内に医師の行動を表記することとした。項目のうち類似するものを集め、医師の行動として抽象化した(表 3)。

表 3　医師のケア行動の抽象化

ケア行動の抽象化	項目番号
よく聞き理解する	7,8,9,26
最適な医学的治療を提供する、苦痛を緩和する、病状を予測する	17,18,25,31
的確な選択肢と説明を提示する	1,2,10
QOL・家族・価値観に配慮する	19,20,21,27,28
患者のペースに合わせる	12,13
患者と適切な距離を置く	14,29,30
患者の気持ちを支える	3,11,15,16
患者に安寧を提供する	22,23,24
信頼関係を構築する	4,5,6

・患者を中心として看護師と医師のケア・キュア融合型の活動が明示されるよう、表 3 の中で医師の行為として表現できるものはモデル内に位置付けた。協働の在り方として、「患者のペースに合わせる、患者と適切な距離を置く、患者の気持ちを支える」が含まれる。そして看護活動と比較して言葉の抽象度のレベルを合わせて、モデル暫定版を作成した(図 2)。



※ 協働の在り方として「患者のペースに合わせる」、「患者と適切な距離を置く」、「患者の気持ちを支える」が含まれる。

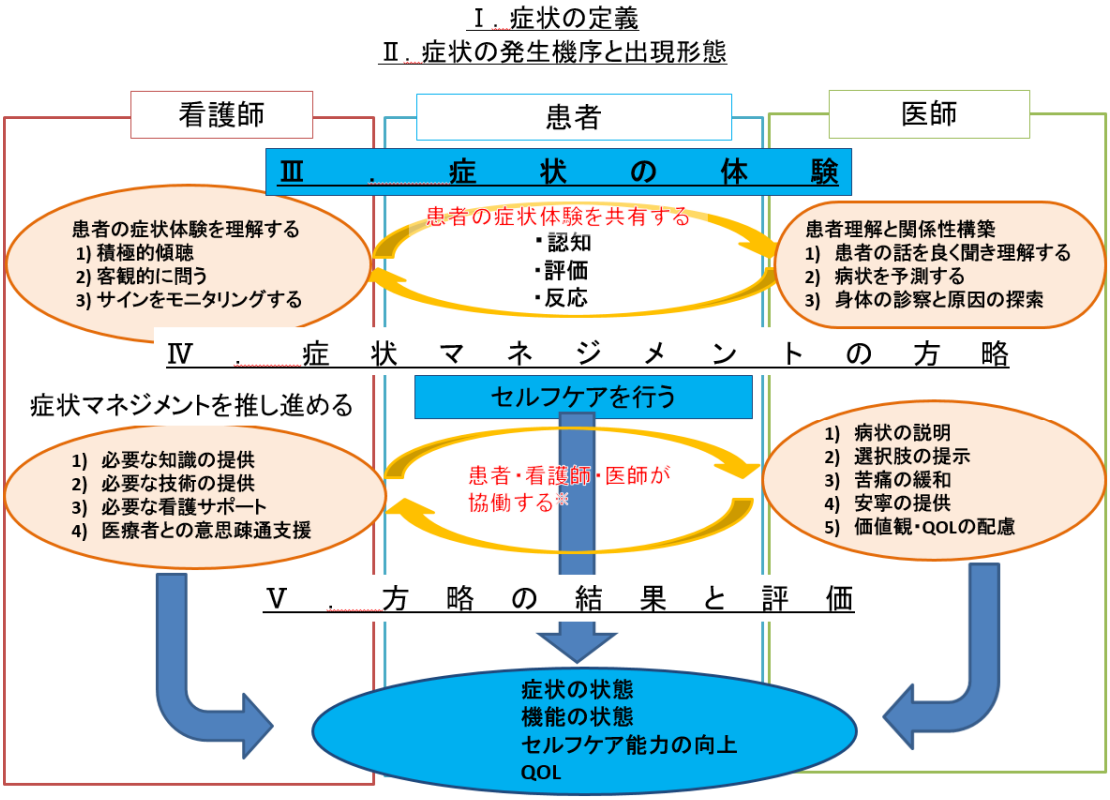
図 2　ケア・キュア融合型症状マネジメントモデル暫定版

② 事例適用による暫定版モデルの妥当性の確認

・がん看護専門看護師、がん放射線療法看護認定看護師 4 名の協力を得て、看護師-医師が協働して取り組んだ症状マネジメントの過去の事例を記述してもらった。記述データの中から医師、看護師の行為を抽出し、その行為がモデル内で表現されているか、モデル以外の行為が出てきていないかを確認ながら、事例毎にモデル図に表現した。分析は、3 人のがん看護領域における症状マネジメントの専門家の合議によって行った。

・5 事例(呼吸困難、食欲不振、放射線性下痢、倦怠感、ホットフラッシュ)について分析を行った。

・医師の症状マネジメントにおける行為の中には、明らかにケアの概念に合致する行為が多く含まれており、概ねモデルと合致していることを確認した。また、全身状態の観察や症状の原因探索は、医師の重要な行為として行っており、【Ⅲ. 症状の体験】の段階に「身体の診察と原因の探索」の項目を追加することとした(図 3)。



※ 協働の在り方として「患者のペースに合わせる」、「患者と適切な距離を置く」、「患者の気持ちを支える」が含まれる。

図 3 ケア・キュア融合型症状マネジメントモデル

〈引用文献〉

1) Temel JS, et al. (2010). Early Palliative Care for Patients with Metastatic Non Small-Cell Lung Cancer. New England Journal of Medicine. 363, 733-742.
2) 宮下光令. (2013). 注目！がん看護における最新エビデンス 早期からの緩和ケアは生存期間を延長する可能性がある. オンコロジーナース. 7(5), 76-77.
3) 細田満和子（2003）「チーム医療」の理念と現実 日本看護協会出版会.
4) Larson PJ., Uchinuno A., et al. (1999). An Integrated Approach to Symptom Management. Nursing & Health Sciences. 1(4), 203-210.
5) 内布敦子他（1998）：The Integrated Approach to Symptom Management を応用した看護活動ガイドブック：別冊 ナーシングトゥデイ 12 178-184
6) IASM 研究班（2020 年 5 月アクセス）. がん患者の症状マネジメント 看護師と医師が協働するケア・キュア融合型症状マネジメントモデルの開発. http://sm-support.net/index.html
7) 荒尾晴惠(2002) 症状マネジメントにおける IASM の有効性の検討 がん性疼痛の症状マネジメントにおける比較から 看護研究 35(3)213-227
8) Kuethe MC., et al. (2013). Nurse versus physician-led care for the management of asthma. Cochrane Database of Systematic Reviews. 28(2), doi: 10.1002/14651858.CD009296.pub2.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計32件（うち査読付論文　23件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　14件）

１．著者名 江藤美和子，吉野葵，周知規子，中野宏恵，永山博美，福田正道，内布敦子	４．巻 27
２．論文標題 がん化学療法中の排便障害と日常生活への影響	５．発行年 2020年
３．雑誌名 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	６．最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 相原由花，内布敦子	４．巻 27
２．論文標題 日本語版Nyberg Caring Assessment Scale (日本語版CAS)の信頼性と妥当性の検討	５．発行年 2020年
３．雑誌名 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	６．最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中野宏恵，竹田元美，松岡和美	４．巻 27
２．論文標題 化学療法誘発性末梢神経障害を体験する患者の症状マネジメントの方略	５．発行年 2020年
３．雑誌名 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	６．最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Miyashita M, Tsukamoto N, Hashimoto M, Kajiwara K, Kako J, Okamura H	４．巻 59(1)
２．論文標題 Validation of the Japanese Version of the Functional Assessment of Cancer Therapy-Cognitive Function Version 3	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of Pain and Symptom Management	６．最初と最後の頁 139-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jpainsymman.2019.09.027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kako J, Kajiwara K, Miyashita M.	4．巻 58(2)
2．論文標題 Response to “The Hand-Held Fan and the Calming Hand for People With Chronic Breathlessness: A Feasibility Trial”	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Pain and Symptom Management	6．最初と最後の頁 e1-e2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jpainsymman.2019.03.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Fumita S., Imai H., Harada T., Noriyuki T., Gamoh M., Akashi Y., Sato H., Kizawa Y., Tokoro A.	4．巻 59(5)
2．論文標題 Patients' Self-Assessment of the Symptoms and Impact of Opioid-Induced Constipation: Results From a Prospective Observational Cohort Study of Japanese Patients With Cancer	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of Pain and Symptom Management	6．最初と最後の頁 1043-1051
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jpainsymman.2019.11.021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tokoro A., Imai H., Fumita S., Harada T., Noriyuki T., Gamoh M., Akashi Y., Sato H., Kizawa Y.	4．巻 8(10)
2．論文標題 Incidence of opioid‐induced constipation in Japanese patients with cancer pain: A prospective observational cohort study	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Cancer Medicine	6．最初と最後の頁 4883-4891
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/cam4.2341	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nii M., Tsuchida Y., Kato Y., Uchinuno A., Sakashita R.	4．巻 2018
2．論文標題 A Convolution Neural Network Based Nursing-care Text Classification Model with a New Filter for Expressing Dependency Relations of Words	5．発行年 2018年
3．雑誌名 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics	6．最初と最後の頁 871-876
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/SMC.2018.00156	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤真理，秋元典子	4．巻 14
2．論文標題 食道切除再建術後の急性期にある食道がん患者が主体性を発揮していく過程	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本クリティカルケア看護学会誌	6．最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11153/jaccn.14.0_23	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takahashi Y, Shien T, Sakamoto A, Tsuyumu Y, Yoshioka R, Uno M, Hatono M, Kochi M, Kawada K, Tsukioki T, Iwamoto T, Ikeda H, Taira N, Matsuoka J, Nakatsuka M, Doihara H.	4．巻 72(2)
2．論文標題 Current Multidisciplinary Approach to Fertility Preservation for Breast Cancer Patients	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Acta Med Okayama	6．最初と最後の頁 137-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/AMO/55854	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sakurai H, Miyashita M, Imai K, Miyamoto S, Otani H, Oishi A, Kizawa Y, Matsushima E.	4．巻 49(3)
2．論文標題 Validation of the Integrated Palliative care Outcome Scale (IPOS) -Japanese Version	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Jpn J Clin Oncol	6．最初と最後の頁 257-262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/jjco/hyy203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Okamoto Y, Morita T, Tsuneto S, Aoyama M, Kizawa Y, Shima Y, Miyashita M.	4．巻 35(7)
2．論文標題 Bereaved Family Members' Perceptions of the Distressing Symptoms of Terminal Patients With Cancer	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Am J Hosp Palliat Care	6．最初と最後の頁 972-977
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/1049909118765409	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Matsuoka H, Tagami K, Ariyoshi K, Oyamada S, Kizawa Y, Inoue A, Koyama A.	4．巻 49(5)
2．論文標題 Attitude of Japanese palliative care specialists towards adjuvant analgesics cancer-related neuropathic pain refractory to opioid therapy: a nationwide cross-sectional survey	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Jpn J Clin Oncol	6．最初と最後の頁 486-490
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/jjco/hyz002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菊田美穂、方尾志津、安達美樹、大内紗也子、脇口優希、中野宏恵、内布敦子	4．巻 31
2．論文標題 薬物療法を受ける造血器腫瘍患者の口腔トラブルの実態とそのマネジメント	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本がん看護学会誌	6．最初と最後の頁 155-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.18906/jjscn.31_kikuta_20170925	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 宮下美香	4．巻 27(5)
2．論文標題 国際学会で得た仲間から学び協働する	5．発行年 2017年
3．雑誌名 緩和ケア	6．最初と最後の頁 354-356
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川崎優子	4．巻 33(11)
2．論文標題 大腸全摘術後の排泄障害をもつ患者さんの症状体験とセルフケア～家族性大腸腺腫症の場合～	5．発行年 2017年
3．雑誌名 エキスパートナース	6．最初と最後の頁 51-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川崎優子	4．巻 37(11)
2．論文標題 共有型看護相談モデル「NSSDM」で患者さんの「意思決定」を支援しよう！	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ナース専科	6．最初と最後の頁 10-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 長岡広香、坂下明大、濱野淳、岸野恵、岩田直子、福地智巴、志真泰夫、木澤 義之	4．巻 12(4)
2．論文標題 がん診療連携拠点病院のソーシャルワーカー・退院調整看護師から見た緩和ケア病棟転院の障壁	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Palliative Care Research	6．最初と最後の頁 789-799
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.2512/jspm.12.789	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Okamoto Y, Morita T, Tsuneto S, Aoyama M, Kizawa Y, Shima Y, Miyashita M.	4．巻 -
2．論文標題 Bereaved Family Members' Perceptions of the Distressing Symptoms of Terminal Patients With Cancer.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 American Journal of Hospice and Palliative Medicine	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/1049909118765409	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hamano Jun、Morita Tatsuya、Ikenaga Masayuki、Abo Hirofumi、Kizawa Yoshiyuki、Tunetou Satoru	4．巻 55
2．論文標題 A Nationwide Survey About Palliative Sedation Involving Japanese Palliative Care Specialists: Intentions and Key Factors Used to Determine Sedation as Proportionally Appropriate	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of Pain and Symptom Management	6．最初と最後の頁 785-791
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1016/j.jpainsymman.2017.10.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Mori M, Morita T, Yokomichi N, Nitto A, Takahashi N, Miyamoto S, Nishie H, Matsuoka J, Sakurai H, Ishihara T, Tarumi Y, Ogawa A	4．巻 -
2．論文標題 Validation of the Edmonton Symptom Assessment System: Ascites Modification.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of Pain and Symptom Management	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1016/j.jpainsymman.2018.03.016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中野宏恵，内布敦子	4．巻 24
2．論文標題 がん症状マネジメントにおける患者のセルフケアレベル判定基準の検討	5．発行年 2017年
3．雑誌名 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	6．最初と最後の頁 139-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 西谷葉子，湯浅幸代子，細見裕久子，北山奈央子，礒元淳子，中野宏恵，内布敦子	4．巻 24
2．論文標題 分子標的薬による皮膚障害の症状マネジメントの実態	5．発行年 2017年
3．雑誌名 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	6．最初と最後の頁 93-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kanoh A, Kizawa Y, Tsuneto S, Yokoya S.	4．巻 ー
2．論文標題 End-of-life care and discussions in Japanese geriatric health service facilities: A nationwide survey of managing directors’ viewpoints.	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Am J Hosp Palliat Care	6．最初と最後の頁 ー
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/1049909117696203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yotani N, Kizawa Y, Shintaku H.	4．巻 ー
2．論文標題 Differences between Pediatricians and Internists in Advance Care Planning for Adolescents with Cancer	5．発行年 2017年
3．雑誌名 J Pediatr	6．最初と最後の頁 ー
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jpeds.2016.11.079	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Okuyama T, Kizawa Y, Morita T, Kinoshita H, Uchida M, Shimada A, Naito AS, Akechi T.	4．巻 14(9)
2．論文標題 Current Status of Distress Screening in Designated Cancer Hospitals: A Cross-Sectional Nationwide Survey in Japan	5．発行年 2016年
3．雑誌名 J Natl Compr Canc Netw	6．最初と最後の頁 1098-1104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 島田麻美，木澤義之	4．巻 67(11)
2．論文標題 【前立腺癌　がん・合併症・有害事象での薬物治療戦略を総まとめ】前立腺癌患者の骨病変と痛みへのアプローチ，前立腺癌有痛性骨転移患者の疼痛緩和におけるオピオイドの匙加減	5．発行年 2016年
3．雑誌名 薬局	6．最初と最後の頁 3063-3068
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 木澤義之，山口崇，余谷暢之	4．巻 43(3)
2．論文標題 がん薬物療法とアドバンス・ケア・プランニング	5．発行年 2016年
3．雑誌名 癌と化学療法	6．最初と最後の頁 277-280
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 木原里香，木澤義之	4．巻 29(3)
2．論文標題 【意外に知らない!?　泌尿器緩和ケアのすべて】 がん疼痛のマネジメント	5．発行年 2016年
3．雑誌名 泌尿器外科	6．最初と最後の頁 223-229
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 荒尾晴惠	4．巻 63(1)
2．論文標題 患者のセルフケア能力を引き出すがん患者の症状マネジメント 第1回 看 護モデルで症状をマネジメントするには	5．発行年 2017年
3．雑誌名 看護技術	6．最初と最後の頁 72-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 荒尾 晴惠	4．巻 21(6)
2．論文標題 症状マネジメントモデルを活かして、患者の力を引き出す　症状マネジ メントモデルの概要と看護師のありよう	5．発行年 2016年
3．雑誌名 がん看護	6．最初と最後の頁 625-628
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 荒尾晴惠	4．巻 20(4)
2．論文標題 患者さんの力を活かす症状マネジメント	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Medical Forum CHUGAI	6．最初と最後の頁 24-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計28件（うち招待講演　1件／うち国際学会　8件）

１．発表者名 中野宏恵，竹田元美，松岡和美，三木珠美
２．発表標題 化学療法誘発性末梢神経障害を体験しているがん患者の症状マネジメントの方略
３．学会等名 第4回日本がんサポーティブケア学会学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Miyashita M, Yamaguchi M, Tenda Y, Kako J, Kajiwara K, Kadoya T.
２．発表標題 Effects of Cognitive Function as a Mediator on Quality of Life in Post-operative Elderly Patients with Breast Cancer
３．学会等名 Oncology Nursing Society 44th Annual Congress（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Mori K, Miyashita M, Kako J, Kajiwara K.
２．発表標題 Difficulties and Coping Strategies in Nursing and Medical Care for Cancer Patients with Dementia: A Qualitative Study
３．学会等名 Oncology Nursing Society 44th Annual Congress（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉野葵，北川善子，西村美穂，一上由華，伊賀規子，江藤美和子，福井由紀子，中野宏恵，福田正道，内布敦子
２．発表標題 がん放射線治療中の排便障害の症状マネジメントの実態調査
３．学会等名 緩和・支持・心のケア合同学術大会2020
４．発表年 2020年

１．発表者名 湯浅幸代子，太白公乃，中野宏恵，西谷葉子，北山奈央子，礒元淳子，内布敦子
２．発表標題 EGFR阻害剤の皮膚症状マネジメントについてIASM看護介入によりセルフケア能力向上に有効であった4症例
３．学会等名 緩和・支持・心のケア合同学術大会2020
４．発表年 2020年

１．発表者名 Nakano, H., Uchinuno, A., Matsuoka, J., Kizawa, M., Fukuda, M., Wakiguchi, Y.
２．発表標題 Physician recognition of concepts of care and their caring activities while performing symptom management on cancer patients: Qualitative findings
３．学会等名 The 22th East Asian Forum of Nursing Scholars（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 脇口優希，菊田美穂，方尾志津，安達美樹，中野宏恵，内布敦子
２．発表標題 薬物療法中の血液疾患患者を対象とした口腔トラブルマネジメント介入プログラムの有効性の検証
３．学会等名 第3回日本がんサポーティブケア学会学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Miyashita M, Miki E, Okamura H, Kagawa N, Asano S, Kataoka T.
２．発表標題 Effects of the speed-feedback therapy on cancer therapy-related cognitive impairment in patients with breast cancer: A preliminary study
３．学会等名 Oncology Nursing Society 43rd Annual Congress（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yahiro Y, Miyashita M.
２．発表標題 Effect of an education program for nurses aimed at implementing ACP for patients with cancer in Japan
３．学会等名 Oncology Nursing Society 43rd Annual Congress（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 土田祐也、新居学、加藤勇介、内布敦子、坂下玲子
２．発表標題 畳み込みニューラルネット枠を用いた看護テキストの分類
３．学会等名 第61回システム制御情報学会研究発表講演会
４．発表年 2017年

１．発表者名 内布敦子
２．発表標題 超高齢時代のがん対策
３．学会等名 がん予防学術大会2017大阪（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Nii M, Tsuchida Y., Kato Y., Uchinuno A., Sakashita R.
２．発表標題 Nursing-care Text Classification using Word Vector Representation and Convolutional Neural Network
３．学会等名 Joint 17th World Congress of International Fuzzy Systems Association（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Nii M, Tsuchida Y., Kato Y., Uchinuno A., Sakashita R.
２．発表標題 Analysis of Classification Results for the Nursing-care Text Evaluation Using Convolutional Neural Networks
３．学会等名 The 6th International Conference on Informatics, Electronics & Vision(ICIEV)（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Zhang H, Miyashita M.
２．発表標題 Symptom clusters in breast cancer survivors: A systematic literature review
３．学会等名 International Conference on Cancer Nursing（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 八尋陽子、宮下美香
２．発表標題 がん患者のAdvance Care Planningに対する緩和ケア認定看護師の認識
３．学会等名 第32回日本がん看護学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 三村優、秋元典子
２．発表標題 女性乳がん患者の初期治療選択に関する文献検討
３．学会等名 第32回日本がん看護学会学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 太田佳男、秋元典子
２．発表標題 遺伝性大腸がん患者と家族が抱える問題に関する文献検討
３．学会等名 第32回日本がん看護学会学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 南口陽子、荒尾晴惠、松本禎久、木澤義之、明智龍男、高尾鮎美、青木美和、畠山明子、森田達也
２．発表標題 苦痛のスクリーニングでトリガーされた患者のフォローアップ方法における課題と対策
３．学会等名 第22回日本緩和医療学会学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 西村晴美、伊藤由美子、西海嘉能、池垣淳一、長澤君子、成田康子、木澤義之
２．発表標題 初診患者に対する苦痛のスクリーニングと対応の有効性
３．学会等名 第22回日本緩和医療学会学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 枝園忠彦、　露無祐子、鳩野みなみ、突沖貴宏、高橋侑子、河田健吾、三好雄一郎、河内麻里子、西山慶子、溝尾妙子、岩本高行、野上智弘、元木崇之、平成人、松岡順治、土井原博義
２．発表標題 抗悪性腫瘍薬の有害事象に対するマネジメント　発熱性好中球減少への対処から骨塩量低下に対する支持療法まで 外来にて多職種によるチームで取り組む経口抗悪性腫瘍剤のマネジメント
３．学会等名 第25回日本乳癌学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 菊田美穂，方尾志津，　安達美樹，大内沙也子，　脇口優希，中野宏恵，内布敦子
２．発表標題 薬物療法を受ける造血器腫瘍患者の口腔粘膜炎の実態とそのマネジメント
３．学会等名 第21回日本緩和医療学会学術大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 杉江礼子，吉岡とも子，井沢知子，日下咲，吉本歩，中野宏恵，内布敦子
２．発表標題 がん治療に関連した続発性リンパ浮腫の症状マネジメントの実態調査
３．学会等名 第21回日本緩和医療学会学術大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 西谷葉子，湯浅幸代子，細見裕久子，北山奈央子，礒元淳子，中野宏恵，内布敦子
２．発表標題 分子標的薬による皮膚障害の症状マネジメントの実態調査
３．学会等名 第54回日本癌治療学会学術集会
４．発表年 2016年

１．発表者名 吉野葵，江藤美和子，周治規子，福井由紀子，中野宏恵，永山博美，　内布敦子
２．発表標題 がん化学療法中の排便障害による日常生活への栄養とその対処
３．学会等名 第36回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Megumi Kishino, Yoshiyuki Kizawa, Yuko Sato, Mitsunori Miyashita, Tatsuya Morita, Jun Hamano, Toyoshi Hosokawa
２．発表標題 Does negative PMI indicate a need for further pain treatment? Concordance between PMI and other indicators
３．学会等名 21st International Congress on Palliative Care
４．発表年 2016年

１．発表者名 木澤義之
２．発表標題 がん患者の突出痛の評価と治療
３．学会等名 第21回日本緩和医療学会学術大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 木澤義之，坂下明大，山口 崇
２．発表標題 転移性脊椎腫瘍への最新の知見ー転移性脊椎腫瘍に対する緩和ケア
３．学会等名 第87回日本整形外科学会学術総会
４．発表年 2016年

１．発表者名 松岡 順治，河内 麻里子，岩本 高之，元木 崇之，土井原 博義，平 成人，露無 祐子，藤原 俊義
２．発表標題 薬物療法を受けている患者のQOL　多職種からのアプローチ エベロリムス投与における有害事象の評価　患者と医療者の認識の違い、各職種間における認識の違い
３．学会等名 第24回日本乳癌学会学術総会
４．発表年 2016年

〔図書〕　計5件

1．著者名 北川善子，福井由紀子，福田正道，中野宏恵，江藤美和子，吉野葵，伊賀規子，西村美穂，一上由華，内布敦子	4．発行年 2020年
2．出版社 看護師と医師が協働するケア・キュア融合型症状マネジメントモデルの開発研究班	5．総ページ数 14
3．書名 放射線治療による下痢のケア	

1．著者名 川崎優子	4．発行年 2019年
2．出版社 南江堂	5．総ページ数 406-413
3．書名 専門家を目指す人のための緩和医療学 改訂第2版	

1．著者名 荒尾晴惠	4．発行年 2018年
2．出版社 照林社	5．総ページ数 23-27
3．書名 がん患者の症状まるわかりBOOK／症状マネジメントのポイント	

1．著者名 林みずほ，荒尾晴惠	4．発行年 2018年
2．出版社 照林社	5．総ページ数 272-279
3．書名 がん患者の症状まるわかりBOOK／がん患者にみられる「生殖器」の症状　月経停止・閉経	

１．著者名 小松 浩子、内布敦子他	４．発行年 2018年
２．出版社 医学書院	５．総ページ数 425
３．書名 成人看護学[1] 成人看護学総論 第15版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

がん患者の症状マネジメント　ケア・キュア融合型症状マネジメントモデルの開発 http://sm-support.net/index.html 看護師と医師が協働するケア・キュア融合型症状マネジメントモデルの開発 活動報告書2016年度 http://sm-support.net/member/pdf/m_b.pdf 2017-2018年度 http://sm-support.net/member/pdf/m_c.pdf 2019年度 http://www.sm-support.net/member/pdf/m_d.pdf 臨床で用いるために作成した21の動画はhttp://sm-support.net/index.html内に掲載している。

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	中野　宏恵 (NAKANO Hiroe) (00632457)	兵庫県立大学・看護学部・助教 (24506)	
研究分担者	福田　正道 (FUKUDA Masamichi) (00781139)	兵庫県立大学・看護学部・助教 (24506)	
研究分担者	脇口　優希 (WAKIGUCHI Yuki) (90520982)	兵庫県立大学・看護学部・助教 (24506)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	川崎　優子 (KAWASAKI Yuko) (30364045)	兵庫県立大学・看護学部・准教授 (24506)	
研究分担者	宮下　美香 (MIYASHITA Mika) (60347424)	広島大学・医歯薬保健学研究科（保）・教授 (15401)	
研究分担者	木澤　義之 (KIZAWA Yoshiyuki) (80289181)	神戸大学・医学部附属病院・特命教授 (14501)	
研究分担者	松岡　順治 (MATSUOKA Junji) (30332795)	岡山大学・ヘルスシステム統合科学研究科・教授 (15301)	
研究分担者	荒尾　晴惠 (ARAO Harue) (50326302)	大阪大学・医学系研究科・教授 (14401)	
研究分担者	秋元　典子 (AKIMOTO Noriko) (90290478)	甲南女子大学・看護リハビリテーション学部・教授 (34507)	
研究協力者	安達　美樹 (ADACHI Miki)		
研究協力者	井沢　知子 (IZAWA Tomoko)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	礒元　淳子 (ISOMOTO Atsuko)		
研究協力者	一上　由華 (ICHIGAMI Yuka)		
研究協力者	江藤　美和子 (ETO Miwako)		
研究協力者	方尾　志津 (KATAO Shizu)		
研究協力者	菊田　美穂 (KIKUTA Miho)		
研究協力者	北川　善子 (KITAGAWA Yoshiko)		
研究協力者	北山　奈央子 (KITAYAMA Naoko)		
研究協力者	福井　由紀子 (FUKUI Yukiko)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	伊賀　規子 (IGA Noriko)		
研究協力者	杉江　礼子 (SUGIE Reiko)		
研究協力者	西谷　葉子 (NISHITANI Yoko)		
研究協力者	西村　美穂 (NISHIMURA Miho)		
研究協力者	日下　咲 (HINOSHITA Saki)		
研究協力者	湯浅　幸代子 (YUASA Sayoko)		
研究協力者	吉岡　とも子 (YOSHIOKA Tomoko)		
研究協力者	吉野　葵 (YOSHINO Aoi)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	吉本　歩 (YOSHIMOTO Ayumu)		
研究協力者	相原　由花 (AIHARA Yuka)		